

2026 Winter

国土交通省 四国地方整備局
小松島港湾・空港整備事務所

Vol.64

あわ せなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

新造客船

「飛鳥Ⅲ」が初寄港！

～ 徳島小松島港の歴史に新たな1ページ～



TOPICS

特集

小松島水先区 水先人会 新田会長への特別取材

—— 船舶の安全を守るプロフェッショナル水先人の仕事とは!? ——

所長挨拶

新年、明けましておめでとうございます。

平素より四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所の港湾・空港行政にご協力賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪夢洲(ゆめしま)にて開催されたEXPO2025大阪・関西万博が大いに盛り上がり、徳島県にも多面的な経済効果をもたらしました。また、公式キャラクター「ミャクミャク」は幅広い世代から親しまれました。

スポーツ界では、大谷翔平選手をはじめ多くの日本人アスリートが世界を舞台に活躍し、スポーツを通じてここでも多面的な経済効果が創出されました。

芸術面では、映画「国宝」の大ヒットも話題のひとつと言えます。新語・流行語大賞では「国宝」がベストテン入りするなど、この映画をみて伝統芸能に興味を持った若者が増えたのではないのでしょうか。

一方で、新年早々、島根県東部で地震が発生し、改めて日頃の災害への備えの重要性を痛感させられたところです。

引き続き、私たちは港湾・空港の整備を通じて幅広い経済効果を生み出すと共に、「安全・安心」の確保を図ることで、地元の皆様から親しまれ、若者が魅力を感じる「みなとづくり」を目指します。この1年、全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

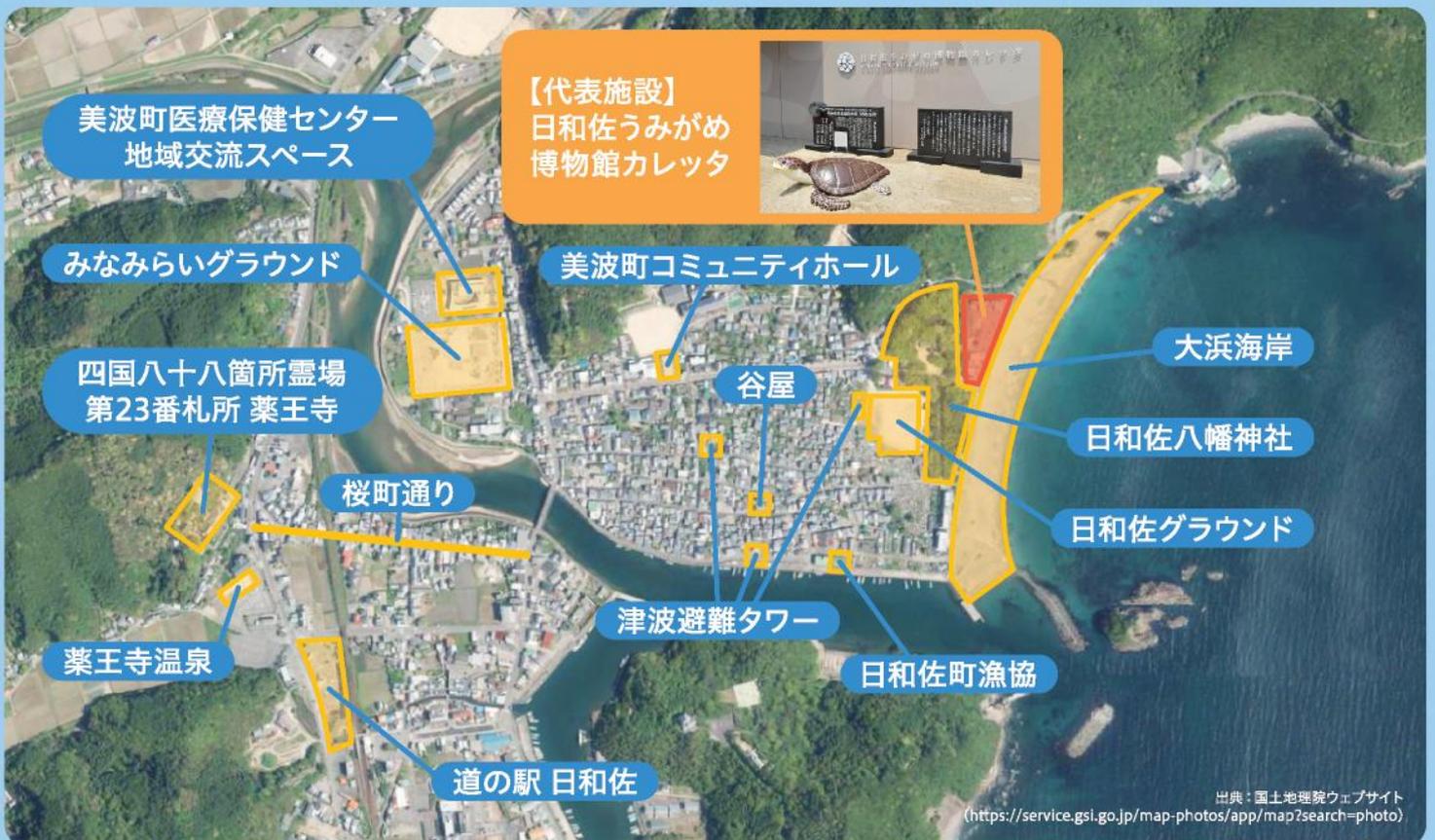
小松島港湾・空港整備事務所長 高尾 俊輝



「みなとオアシス“ウミガメと信仰のまち”ひわさ」へ是非！

令和7年7月16日、徳島県美波町において「みなとオアシス“ウミガメと信仰のまち”ひわさ」が新規登録されました。徳島県内においては「小松島みなとオアシス」に次ぐ、2か所目のみなとオアシス登録となります。

リニューアルオープンした「日和佐うみがめ博物館 カレッタ」を代表施設とし、「四国八十八箇所霊場第23番札所 薬王寺」、「道の駅 日和佐」、リノベーションした古民家が建ち並ぶ商店街「桜町通り」など14の施設で構成されており、官民連携による地域一体となった多彩なイベントも数多く開催されています。回遊、滞在を通じて、歴史・文化・自然を満喫できますので是非、足を運んでいただければと思います。





水先人の仕事内容や使命を教えてください。

小松島水先区水先人である私の仕事は、徳島エリアに入出港する船舶からの求めに応じて乗船し、船長に対して安全運航に必要な助言、情報提供を行うとともに、船長に代わり操船することで船舶を安全に導くことです。大型船舶に事故が発生すると、人的、物的被害は勿論のこと、油の流出などにより環境にも甚大な被害を及ぼします。私の使命は、水先人としての仕事を誠実に全うすることで船舶交通の安全を確保し、円滑な物流に寄与することです。

水先人を務めることになった経緯ややりがいを教えてください。

大学の卒業論文で水先人に関する事象をテーマに執筆し、それ以来、将来水先人になることを夢見てきました。50歳を過ぎ、定年退職後の人生を考えた際、学生時代に描いた夢を目指すことに決めました。何度乗船しても、乗船前は緊張しますが、安全に仕事をやり遂げた後の充実感は何とも言えないとても良い気分。やりがいは、この充実感です。

水先人を務めるうえで大切にしていることを教えてください。

- ①入念な事前準備 船の特性、気象状況、潮汐、過去の操船記録等を入念に確認します。
- ②乗船したら笑顔 乗船したら笑顔で船長、乗組員に挨拶します。笑顔は最高のコミュニケーションツールだと思っています。また、水先人が緊張した顔をしていると、船長が不安になります。安全運航にとっても、笑顔は大切なツールです。
- ③Cool head Warm heart どのような状況でも常に冷静に。また、乗組員が私の指示と違うことをしてしまっても、人間は間違ふものと考えているので怒りません。萎縮させない環境を作ることで、乗組員のパフォーマンス発揮につなげます。

誘導する船舶の分、たくさんの船員との出会いがありますが、コミュニケーションで意識していることはありますか？

笑顔です。それに加えて、船長と乗下船時に握手をします。また、私の指示で舵を取ってくれた操舵手にも「グッジョブ!」と一言かけて握手をします。すると、操舵手はとても嬉しそうな笑顔を見せてくれます。

これまでの経験で良かったこと、悪かったことなど印象に残っている経験を教えてください。

帆船の船長として東京湾を出た海域からハワイ・カウアイ島の沖まで帆走で2回航海したことが印象に残っています。悪いことも沢山あったと思いますが、もう忘れました。水先人になってからは、毎回の乗船が良かったことです。悪かったと思った経験はありません。ただ、水先人国家試験対策の勉強は大変でした。朝4時の起床から夜9時の就寝までの間、海技大学校での授業の他、毎日7時間、学校に行かない日は15時間以上勉強しました。60歳をこえてからの受験勉強は大変でしたが、辛いと思ったことはありませんでした。

水先人になるにはどのような資格が必要ですか？

水先人の資格には、一級(制限なし)、二級(上限6万総トンまでの船舶、但し危険物積載船は上限2万総トンまで)、三級(上限3万総トンまでの船舶、但し危険物積載船は不可)の3つのランクがありますが、私が持つ一級水先人の資格を得るには、以下のものが必要です。

- 3,000トン以上の船舶の船長として2年以上の職歴を有する。
 - 海技振興センターが実施する水先人養成支援対象者選考試験に合格する。
 - 海技大学校に入学、水先コース(一級)9ヶ月を修了する。
 - 国家試験 筆記試験に合格する。
 - 国家試験 口述試験(口頭試問及び海図描画)に合格する。
- ※筆記試験に合格しなければ口述試験を受験できない。
 ※海図描画では、白紙の模造紙に指定された海図の内容を何も見ずに書き写す。
 上記のプロセスを経た結果、水先人免状を取得することが出来ます。

数多くの経験や試験を経て水先人になるんだね。まさにプロフェッショナル!



水先人の担い手確保という課題もある中で、新田会長が伝えたい水先人の魅力を教えてください。

これまでに培ってきた知識や経験の延長線上にある仕事であることが魅力だと思います。海が好きで商船大学に入学して、海で働いてきて、新たなステージで海や船に関わることができるのは幸せなことだと思っています。また、一度たりとも同じ状況はない中で、自分の思った通りに船を動かすことが出来る面白みも魅力の1つだと思います。

水先人からみた利用しやすい港を教えてください。

適切な水深が確保され、航路等が整備されており、岸壁のフェンダー(防舷材)が適切に整備・維持・管理されている港です。

これまで世界中の港をみてこられたかと思いますが、徳島の港の課題や良いところ、今後期待することを教えてください。

徳島の港は、冬季の季節風を除けば、潮流や波の影響も少なく、四国のなかでも最も環境が整った港の1つと言えます。関西の経済圏にも近く、海運だけでなく、陸運と一体化することによって、四国一の物流拠点になり得ると考えます。私個人の構想としては、使用されなくなった貯木場跡を取り込んで、新たな岸壁ができればと考えています。クルーズ船を核としたウォーターフロントを形成することで、クルーズ船入港数の増加や、県外からも人が集まるにぎわいあるエリアとなるのではないのでしょうか。現在の需要にあった新たな施設整備を行うことで、より良い港になればと思っています。

新田会長は船員さんと笑顔でコミュニケーション! 接岸に向けて、密にコミュニケーションを重ねます。



チップ船入港時のスケジュール

5:40~

乗船に向けて準備
(船舶・気象情報を確認)

5:55

タグボートに乗船し、
チップ船に向かう

6:15~

タラップより
チップ船に乗船

6:20~

船長と打合せ。
接岸に向けた方針を決定

みなとの
情熱
人

“水先人”

徳島小松島港に船舶を導く プロフェッショナル

Profile

小松島水先区水先人会 新田邦繁 会長
昭和37年12月生まれ、北海道 札幌市出身
昭和63年 神戸商船大学(現 神戸大学海事科学部)卒業、同年に運輸省航海訓練所(現(独)海技教育機構)入所。
在職中は、帆船「海王丸」等の練習船舶船長などを歴任。
令和4年3月定年退職後、一級水先人に。
大切にしている言葉は「Cool head Warm heart」「成功体験は両刃の剣」。

新田会長がチップ船の船員と接岸をサポートする2隻のタグボートに指示を出し、ゆっくりと岸壁に近づいていきます。
チップ船(全長210m)が赤石地区岸壁(-13m)に接岸していく様子は圧巻!その陰では新田会長の繊細な仕事ぶり、きめ細やかな気配りが集約された熟練の技術がありました。
接岸後は船長から「ベリーグッドジョブ👍」とお声掛けがありました。
貴重な経験をありがとうございました!
重ねて、今回の取材にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



チップ船接岸時の様子

6:25 ~



周囲の安全を確認して
操船開始

7:00 ~



デッキから目視確認
しながら接岸していく

7:35



赤石地区岸壁(-13m)に
接岸

8:10 ~



下船し、タグボートで帰港。
帰港中に操船の振り返り



今夏、徳島大学4年生の河邊さんが当事務所にインターンシップに来てくれました。インターンシップの感想文を執筆してくれたので紹介します。是非ご覧ください！



インターンシップに参加して

徳島大学4年生の河邊です。9月22日から26日の4日間、インターンシップに参加させていただきました。

今回、小松島港湾・空港整備事務所のインターンシップを志望したきっかけは、私の研究テーマである藻場創出が徳島小松島港で事業として検討されていることを知ったからです。そこから港湾業務そのものにも興味を持ちました。

今回のインターンシップでは、カルシア改質土というものを使った実験と現場見学を体験させていただきました。

カルシア改質土とは、カルシア改質材という鉄を製造する際に出る副産物を原料として、粒の大きさなどを調整した材料を軟弱な海底の土に混合させたものです。実験ではドロドロだった海底の土にカルシア改質材を加えることによって強度が増し、水中でも分離しにくいという特

性を再現することができました。工事の時に掘られて出てきた海底の土は、カルシア改質材などを使って活用されることを学びました。

現場見学では、工事のスケールの大きさに圧倒されました。沖洲(外)地区で見たケーソンというコンクリートの箱はビルくらいの大きさでした。他にも自分の太ももより太い鎖や海底を掘るための大きな船など、全てが巨大でした。しかし、このような壮大な事業を進めるためには細かな調整、県や市、民間企業との連携が必要であり、業務の大変さも知りました。大規模工事を包括的にマネジメントできる仕事は非常にやりがいがあると改めて感じました。

今回のインターンシップを通じて大変貴重な経験を得ることができました。この学びをこれからの進路選択に活かしていきたいと思います。



カルシア改質土実験の様子



固さを測定する実験(左が浚渫土で右がカルシア改質土)



濁り拡散実験(左が浚渫土で右がカルシア改質土)



カルシア改質材を混ぜた浚渫土と混ぜていない浚渫土では土の性状が全然違うね！



この記事を見て小松島港湾・空港整備事務所に少しでも興味を持ってくれた学生のみなさん。インターンシップに参加してみませんか?! あなたの参加をお待ちしています!

「命のみなとネットワーク」海上輸送訓練を実施しました！

12月6日、「命のみなとネットワーク」海上輸送訓練を阿南市 橘港（大湯地区）・椿泊・伊島にて実施しました。「命のみなとネットワーク」とは、孤立した被災地において、海上輸送による緊急物資や生活物資、被災者の輸送等、“みなと”の機能を最大限活用した災害対応のための物流・人流ネットワークのことです。本訓練では港湾業務艇「ひのみね」による海上輸送、海上保安部や港湾管理者である徳島県、阿南市、ならびに災害協定団体等と合同で地震発生から海上輸送までの一連の流れを行いました。

訓練後、岩佐 阿南市長に港湾業務艇「ひのみね」を見学いただき、災害時の海上輸送の重要性を実感していただくことができました。

同日、『徳島地域「命のみなとネットワーク」意見交換会』を開催し、訓練の振り返りや海上輸送における意見交換、能登半島地震における事例紹介が行われ、活発な議論が行われました。

本訓練を通じ、日頃から大規模災害への備えをしておくことの重要性を再確認しました。



伊島漁港における
支援物資輸送訓練の状況



港湾業務艇「ひのみね」を
見学される岩佐 阿南市長



徳島地域「命のみなとネットワーク」
での意見交換会の状況

徳島大学で出前講座を実施！

～ 港湾と日常生活のつながりを実感していただきました ～

12月18日、徳島大学工学部 社会基盤デザインコースの沿岸域工学を受講する3～4年生を対象に出前講座を行いました。

港湾の役割や当事務所の事業概要、港湾におけるカーボンニュートラルに関する講義を行った後に、港湾計画図の作成実習を行いました。地形や利用者のニーズを基に、グループで岸壁や防波堤の設置位置を討議することで、みなさんの日常生活と港湾が密接につながっていることを実感していただくことができました。

当事務所では、地域の方々へ港湾の重要性とその魅力を伝えることができるよう、今後も出前講座などの活動に積極的に取り組んで参ります。

ご興味ある方はお気軽にお問い合わせください！



グループ討議の様子



発表を見守る事務所職員

日峰登山で息抜き、いかがですか？

日頃より「あわみなと通信」をご愛読いただき、ありがとうございます。

さて、読者の皆様は当事務所の近くにそびえ立つ阿波三峰の1つ、日峰山に登山道から登ったことはありますか？ 筆者は初めて登りましたが、登山道はシダ植物やコケなどの緑が生い茂っており、新鮮な空気と共に大古の息吹を肌で感じました。そんな登山道を登ること約20分、山頂に建つ日峰神社に到着し、頂上から小松島港区を一望。和田島半島により、湾内の静穏が保たれ、天然の良港として栄えてきた小松島港区の成行きを改めて実感しました。皆様も日頃の息抜きに登ってみては！？



マイナスイオン溢れる登山道



出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座（みなと学習、環境学習、防災学習）を開講しています。楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。

当事務所
TEL

出前講座、現場見学のお問い合わせは…
(0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。

発行 / 国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 建設管理官室担当
〒773-0001 小松島市小松島町字外開1-11 小松島みなと合同庁舎2階 TEL: (0885)-32-3855

URL <http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
E-mail pa.skr-kmj-m-188s3@mlit.go.jp

事務所ホームページ



事務所公式X

